様式３(2020.08改)

作成日　令和３年１２月５日

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2396300010
事業所名	グループホーム設楽名倉の家

【重点項目への取組状況】

		評価
重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：２）	
	事業所とダブルワークで農家就労する職員を介して新鮮なトマトを何度もわけてもらえ、コロナ禍になっても変わらずご近所から季節の野菜が届いています。開設から7年という年月を重ね、入居者を通じてその親族や知人から「あそこに地域のお年寄りが暮らす施設があるね」との認識が進み、応援者が増えていることを実感しています。また近所の理髪店の出張散髪は「玄関先で」と条件付きで再開、四方山話に花が咲く日常が戻ってきつつあります。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：３）	評価
	昨年度の運営推進会議は中止や書面開催など紆余曲折でしたが、現在は通常運営に戻り、町役場・地域包括支援センター（社協）・民生委員・家族代表・利用者（1名）とで隔月開催が叶っています。会議の場では情報交換だけでなく、民生委員が上手に利用者の気持ちを引き出してくれ、事業所にとっては新たな発見もあり、また利用者本人の有用感に実る貴重な集まりとして昇華しています。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：４）	評価
	常に利用者と職員、事業所運営のことを第一に考え、コロナ対応についても陰圧装置の導入に尽力くださるとともに、アルコール・マスク・非接触体温計など「足りてますか？」と繰り返し確認があり、設楽町役場には守ってもらえている安心感があります。熱い信頼を基盤に気軽に相談できる関係が成り立っており、2ヶ月毎の運営推進会議にも地域包括支援センターとともに必ず出席くださり、事業所では日々感謝しています。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：６）	評価
	コロナ禍となり毎月の家族への便りを手厚くしています。写真に加え記述も増えているため、運営推進会議に出席の家族からも賛辞を得ており、写真を家族LINEで共有するエピソードからは、事業所の便りが親族一同の安寧につながっていることが伺えます。「スイカが食べたい」と書いた本人の七夕短冊を家族に届けたところ西瓜が贈られて、その西瓜を抱いた本人の写真を送る…といった「ふれあいリレー」も日常に溶け込んでいます。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去１年間に６回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		◎

【備考欄】

１．外部評価軽減要件

①　別紙４の「１　自己評価及び外部評価」及び「２　目標達成計画」を市町村に提出していること。

②　運営推進会議が、過去１年間に６回以上開催されていること。

③　運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

④　別紙４の「１　自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の２、３、４、６の実践状況（外部評価）が適切であること。

２．外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
２．事業所と地域のつきあい	（例示） ①　自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、 消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ②　地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
３．運営推進会議を活かした取り組み	（例示） ①　運営基準第８５条の規定どおりに運用されている。 ②　運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
４．市町村との連携	（例示） ①　運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ②　市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
６．運営に関する利用者、家族等意見の反映	（例示） ①　家族会を定期的（年２回以上）に開催している。 ②　利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③　家族向けのホーム便り等が定期的（年２回以上）に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
総合評価	―	―	―	―	―	○	○	○	○	○	◎
実施年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
総合評価	○	◎									